

科目名		基礎デザイン実習B								年度	2025	
英語科目名		Basic Design Practice B								学期	前期	
学科・学年		デザイン科	プロダクトデザイン専攻	1年次	必／選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員		二村 美里			教員の実務経験			あり	実務経験の職種		インテリアデザイナー	
【科目の目的】												
①プロのデザインプロセスを立体作品の制作を通して実習し、デザイナーに必要な基礎力を身につける。 ・誰が何のために使うモノなのか、意識してデザインが出来るようになる。 ・素材や対象の形態、色彩、材質、質感をよく観察し、特徴を活かしたデザインが出来るようになる。 ・スケッチや試作を通してデザインを検証、改良。丁寧に正確な作業をし、素敵なデザイン目指せる。 ②初めてのプレゼンを経験する。自分の作品概要が相手に伝わるプレゼンが出来るようになる。												
【科目の概要】 デザイナーがモノや空間のデザインをする際、どんな思考をして、どんな作業工程を経ているでしょう。ただぼんやりアイデアを出したり、ただなんとなく形にするだけでは、素敵なデザインにはなりません。この授業では、プロがデザインをする際の基礎的な考え方や作業工程を、立体作品の制作を通して実習することで、デザイナーになるための基礎的な力を身に付けていきます。												
【到達目標】 A. 誰が何のために使うモノか意識してデザイン出来る。 B. 素材や対象をよく観察し、特徴を活かしたデザインが出来る。 C. デザインをスケッチや試作を通して計画できる。 D. 丁寧に正確な作業を心がけ、作品を美しく仕上げようとする。 E. 相手に伝わるプレゼンが出来る。												
【授業の注意点】 各課題の提出日やプレゼン日に欠席した場合は本来の評価から減点となるため、注意が必要。 また、以下の場合は落第とするため、注意が必要。 ・出席率75%以下。（全15回の授業のうち、3回以上の欠席を指す。） ・最終授業までに1つでも未提出物がある場合。												
評価基準＝ルーブリック												
ルーブリック評価		レベル5 優れている				レベル3 ふつう				レベル1 要努力		
到達目標 A		5W1Hを意識したデザインが出来る。				誰が何のために使うモノか意識したデザインが出来る。				誰が何のために使うモノか意識せずデザインする。		
到達目標 B		素材や対象をよく観察し、特徴を魅力的に活かせる。				素材や対象をよく観察し、特徴を活かしたデザインが出来る。				素材や対象をよく観察せず、特徴を捉えようとしていない。		
到達目標 C		デザインをスケッチや試作を通して検証、改良出来る。				デザインをスケッチや試作を通して計画できる。				デザインをスケッチや試作をせず、いきなり作り始める。		
到達目標 D		丁寧に正確な作業が出来、作品の仕上がりが美しい。				丁寧に正確な作業を心がけ、作品を美しく仕上げようとする。				作業が雑で不正確、汚い仕上がりがりでも何とも思わない。		
到達目標 E		作品を魅力的に伝えるプレゼンが出来る。				聞き手に伝わるプレゼンが出来る。				何を言いたいのか聞き手に伝わらない。		
【教科書】 無し。												
【参考資料】 随時クラスルームへアップします。												
【成績の評価方法・評価基準】 全5つの作品を、締切日までの提出物、またはプレゼンで評価。評価基準はルーブリック評価に基づく。 出席率や授業態度も評価の対象とする。												
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。												

